

令和6年度 厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服政策研究事業）
分担研究報告書（職域肝炎ウイルス陽性者・両立支援対策）

職域でのウイルス検査受検率向上に向けた取り組み

研究分担者：遠藤 美月 大分大学医学部附属病院消化器内科 講師
研究協力者：荒川 光江 大分大学医学部附属病院肝疾患相談センター 助教

研究要旨：先行研究において、全国健康保険協会（協会けんぽ）は612円の自己負担（協会けんぽが約1400円を負担）で肝炎ウイルス検査を受診可能なoptionを有するも、その受検率は1%前後であり、受検がすすまない因子として、受検申込書の文字数が多い事が着目され、文字数を1/3減少し、一部負担で受検できることを明瞭化した簡易申込書が作成され、その有効性が示された。大分県協会けんぽにおいては、令和元年度に研究班が作成した受検申込書にややアレンジを加えた大分県版新規説明書を大分市内に配布し、前年より約1.3倍の受験者の増加を認めたが、他の地域に比べ微増であった。大分県全域に研究班が作成した受検申込書を踏襲した研究班バージョンを配布したところ、大分市、大分市以外の地域とも受検率が上昇し、簡易受検申込書が受検率向上に寄与したことが確認された。経年的に申込書が変更されているが、この効果が持続しているかを検討した。

A. 研究目的

近年、B型肝炎やC型肝炎患者に対する抗ウイルス療法が進歩し、ほとんどの患者の肝炎鎮静化あるいはウイルス排除が可能となった。一方、自身のウイルス肝炎の有無について知らない人も多く、また、知っている、有効な治療を受けていない人が多いことが問題となっている。受検、受診、受療の各過程における対策が必要であるが、本研究では職域検診における肝炎検査を促進するためのツールとして、研究班が作成した簡易受検申込書を踏襲した検査説明書を大分県内全域に展開し、その有効性について検討を行った。

B. 研究方法

協会けんぽ大分支部の加入者は約25万人存在する。大分市には前年度に展開した大分県版簡易申込書から研究班が作成した申

込書を踏襲した研究班バージョンに変更し配布したところ、大分市では肝炎検査受検割合が約2倍に上昇した。また、大分市以外の地域では、1.8倍に増加した。研究班の簡易受検型申込書が有効であることが明らかとなったが、令和3年度以降はさらに申込書を改訂したため、受検促進効果が持続しているかを検証した。

① 大分県バージョン（2019年）

肝炎ウイルス検査のお知らせ

協会けんぽでは生活習慣病予防健診と同時に
肝炎ウイルス検査を実施しています。

2,041円の検査が612円で受けられます！
特別な検査は必要ありません！
(一般健診の採血の際に採血します。)

※ 治療中の肝炎ウイルス検査を受けたことがある方は受検できません。
※ 労務転入が10%へ変更された場合は24円になります。

肝炎とは...

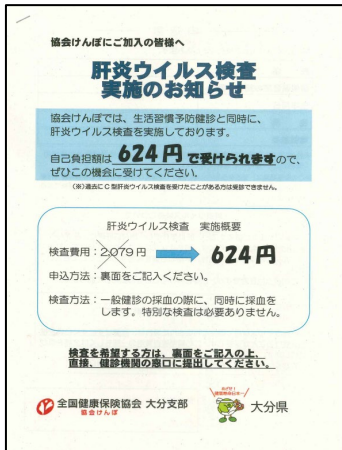
肝炎は、肝炎ウイルスの感染による肝臓の病気です。
肝炎は「予防の機会」が与えられ、自覚症状が現れにくいため、血液検査によって「早期発見・早期治療」を行うことが重要です。
検査や手術の軽微がない方でも感染している可能性があるため、積極的に受検されることをお勧めします。(検査は任意です。)

今まで受けたことのない方、または受けたかどうか分からない方は、この機会にぜひ受けてみてください。

お申し込みは、裏面をご覧ください！

全国健康保険協会 大分支部
協会けんぽ

研究班バージョン (2020年)



大分市においては簡易申込書導入前(2018年4-9月)と大分県版申込書導入後(2019年4-9月)および研究班バージョン申込書導入後(2020年4-9月)、大分県改変版申込書導入(2021年4-9月、2022年4-9月、2023年4-9月)の肝炎ウイルス検査受検率の比較を行った。

大分市以外の地域においては、研究班バージョン導入前(2019年4-9月)と導入後(2020年4-9月)、大分県改変版申込書導入後(2021年4-9月、2022年4-9月、2023年4-9月)の肝炎ウイルス検査受検率の比較を行った。

改変バージョン① (2021-2022年)



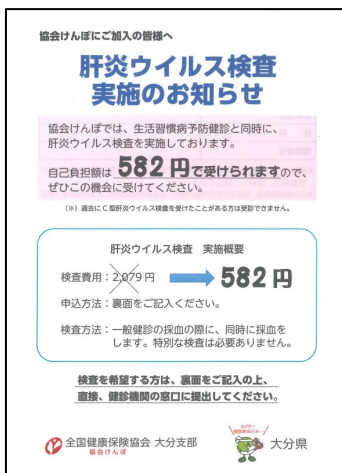
C. 研究結果

大分市における健診受検者に対する肝炎検査受検割合の比較

<大分市健診機関>

| | 肝炎検査受検者数 | 健診受検者数 | 肝炎検査受検割合 (%) |
|-----------|----------|--------|--------------|
| 2019年4-9月 | 829 | 31,303 | 2.6% |
| 2020年4-9月 | 990 | 25,568 | 3.9% |
| 2021年4-9月 | 580 | 23,280 | 2.5% |
| 2022年4-9月 | 433 | 31,270 | 1.4% |
| 2023年4-9月 | 898 | 32,900 | 2.7% |
| 2024年4-9月 | 890 | 44,073 | 2.0% |

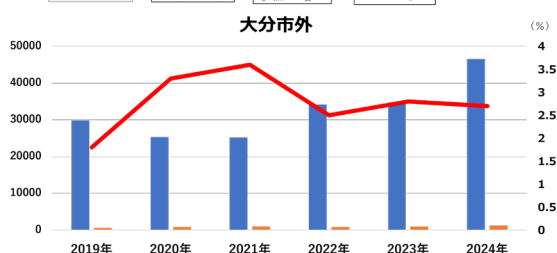
② 改変バージョン② (2023年～)



大分市において、大分県版の簡易申込書を導入した2019年は2018年の同期間と比較して1.3倍(2.6%/2.0%)と肝炎検査受検者は微増であったが、2020年に研究班バージョンを導入後は大分県版導入後から更に1.5倍(3.9%/2.6%)に増加し、簡易申込書導入前の2018年と比較すると2倍(3.9%/2%)の増加を認めた。2021年は改変版に変更されているが、肝炎検査受検者は2.5%と研究班バージョン導入前と同等の割合に低下し、2022年には1.4%とさらに低下を認めたが、2023年に再度研究班バージョンに近い表記のパンフレットに変更後、肝炎検査受検者は2.7%と前年に比べ約2倍に増加し、2024年も2.0%と維持されている。

大分市以外における健診受検者に対する肝炎検査受検割合の比較

| | 肝炎検査受検者数 | 健診受検者数 | 肝炎検査受検割合(%) |
|-----------|----------|--------|-------------|
| 2019年4-9月 | 585 | 29,849 | 1.8% |
| 2020年4-9月 | 842 | 25,313 | 3.3% |
| 2021年4-9月 | 895 | 25,184 | 3.6% |
| 2022年4-9月 | 841 | 34,166 | 2.5% |
| 2023年4-9月 | 971 | 34,695 | 2.8% |
| 2024年4-9月 | 1,243 | 46,552 | 2.7% |



大分県の人口は約130万人、大分市の人口は約48万人であり県民の約37%ほどであるが、健診受験者が都市部に多いため、大分市と大分市以外の総受検者数は各年も同程度であった。大分市以外の健診機関において、研究班バージョンの簡易申込書導入前後を比較すると、導入後は導入前より肝炎検査受検率が1.8%から3.3%と1.8倍に増加した。改変版に変更後も受検率は3.6%と微増し、簡易申込書導入前の2倍となったが、2022年は2.5%と低下を認め、2023年2.8%、2024年2.7%と同程度であった。

大分市と大分市外における肝炎ウイルス検査受検者の要精密検査者割合

| | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 | 2024年(4-10月) |
|-------|--------|--------|--------|--------------|
| 大分市 | 0.35% | 0.44% | 1.2% | 0.1% |
| 大分市以外 | 0.84% | 0.97% | 0.84% | 0.48% |

肝炎ウイルス検査要精密検査割合は、2022年度までは大分市以外が大分市より約2倍多く認められたが、2023年度は大分市で1.2%と増加し、大分市外より高率であった。2024年は上半期までの集計では、大分市、大分市以外ともに要精密検査者割合は著しく減少した。現時点では要精密検査となった受検者の受診行動の把握はできていないため、受診行動の把握を目指していきたい。

D. 考察

研究班で作成した簡易型申込書は、従来のものに比べ、文字数が少なく、短時間で検査について理解することができ、さらに2079円

の検査費が624円になることをアピールできるナッジ理論を応用していることが特徴である。瞬時に検査費用が安いというイメージをもってもらうことができ、検診率・検診者数の増加につながったと考えられる。大分県では、令和元年度は研究班の作成した簡易申込書にアレンジを加えた大分県版の簡易申込書を大分市内の検診機関で導入したが、アレンジを加えたことで研究班が作成したものに比べ、ナッジ理論を応用したアピール力が低下したと考えられ、研究班バージョンに変更後の受検率上昇がより大きかった。令和3年度はさらに申込書が改変され受検率が低下していたが、令和5年度に元の研究班バージョンに近いデザインに変更され前年比2倍の受検率の上昇が認められた。大分市外の地域においては受検率に変化はなかった。令和5年度は受検料が582円と前年より低価格となっており、肝炎ウイルス検査受検者が増加した要因でもあると考えられるが、大分市外では特に増加はなかったことから、価格のためだけではなく、申込書の変更も要因と考えられナッジ理論に基づく研究班バージョンの有用性が示唆された。肝炎ウイルス検査受検者数の減少は、すでに検査を終えたひとが増えてきたためと考えられたが、令和5年度の大分市で前年比2倍の受検者増を認め今年度も維持されていたことから、潜在的な未受検者まだ一定数存在すると考えられる。説明書配布時に受検勧奨を加えることができれば、さらなる受検者数の増加につながる可能性があると考えられた。受検者の肝炎ウイルス陽性率や陽性者の受診行動の確認に取り組むことが課題であるが、令和2年度からは

肝炎ウイルス検査要精密検査数の把握は可能となったため、今後は受診行動の把握が行えるよう取り組みをすすめていきたい。

E. 結論

協会けんぽと連携し、簡易申込書の有効性について検討した。研究班バージョンの簡易申込書に差し替えたことで、受検率・受検者数の増加が認められたが、令和3年度の申込書の変更後は大分市では受検率が減少した。再度研究班バージョンに近い簡易申込書に変更した今年度は大分市で受検率が増加し今年度も維持されているため、ナッジ理論に基づく研究班バージョンの有用性が示唆された。さらに受検者数を増やすためには、申込書以外の要因も検討し、さらなる工夫や対策が必要と考えられた。

F. 政策提言および実務活動

<政策提言>

なし

<研究に関連した実務活動>

肝炎検査は一度行えばよいため、検診結果を記憶できるよう、受検者への肝炎シールの配布を行っている。

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし